

平成28年宇治田原町予算特別委員会

平成28年3月18日

午後1時30分開議

議事日程(第3号)

日程第1 現地審査

1. 出席委員

委員長	1番	稲石義一	委員
副委員長	2番	内田文夫	委員
	3番	山内実貴子	委員
	4番	安本修	委員
	5番	今西久美子	委員
	6番	青山美義	委員
	7番	垣内秋弘	委員
	8番	奥村房雄	委員
	9番	原田周一	委員
	10番	上林昌三	委員
	11番	谷口重和	委員
	12番	田中修	委員

1. 欠席委員 なし

1. 宇治田原町議会委員会条例第18条の規定により会議事件の説明のため出席を求めるものは次のとおりである。

町長	西谷信夫君
副町長	田中雅和君
教育長	増田千秋君
理事兼総務課長	山下康之君
理事兼企画・財政課長	小西基成君

理事兼建設・環境課 建設課長	光嶋隆君
企画・財政課企画課長	奥谷明君
企画・財政課課長補佐	村山和弘君
産業振興課長	木原浩一君
産業振興課 地域資源活用室参事	下岡寛史君

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

議会事務局長	久野村観光君
庶務係長	岡崎貴子君

開 会 午後1時30分

○委員長（稲石義一） 皆さん、こんにちは。

午前中、小学校の卒業式、大変ご苦労さまでございました。

ただいまの出席委員は12名でございます。定足数に達しておりますので、昨日に引き続きまして予算特別委員会を再開いたします。

◎現地審査

○委員長（稲石義一） 日程第1、現地審査に入りたいと思います。

昨日の委員会において確認をいたしておりますように、1カ所目、末山・くつわ池自然公園整備事業、2カ所目、町道新設改良事業（シビック交流拠点）、3カ所目、お茶の京都交流拠点整備事業の順に行ってまいりたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） なければ、直ちに出発いたしますので、よろしく願い申し上げます。

なお、現地審査終了後、直ちに現地審査に係る質疑を行いますので、委員会室にお集まりください。

お手元の資料をお持ちの上、バスにご乗車お願いいたします。

現地審査（午後1時30分～午後3時13分）

○委員長（稲石義一） それでは、現地審査大変ご苦労さまでした。

現地審査3カ所について、直ちに質疑に入ります。

まず、1カ所目の末山・くつわ池自然公園整備事業につきましても質疑を行いたいと思います。何かございませんか。谷口委員。

○委員（谷口重和） 現場でもちょっと聞いたんですけども、トレーラーハウス400万円というような話で、これは須河の見積もりですか。

○委員長（稲石義一） 木原課長。

○産業振興課長（木原浩一） 議員ご指摘のとおりでございます。

○委員長（稲石義一） 谷口委員。

○委員（谷口重和） そしたら、他社からは何社か見積もりとっているわけか、とっていないか。

○委員長（稲石義一） 木原課長。

○産業振興課長（木原浩一） 今現在のところ、とってはおりません。というのは、これの話につきましては、生森のほうも直接須河車体のほうと話をしておられて、こういうイメージはどうかというお互いの協議の中から始まっておりますので、一応、1社の今の見積もりのところで、400万円と申しましたけれども、写真の下のほうにある現物の写真なんです、いろんな装備をされておりますので、それぐらいということではよっと聞いております。

○委員長（稲石義一） 谷口委員。

○委員（谷口重和） これは、町からの補助率はいかほどですか。100%やったら、それも話の持っていく方が、生森からの話かわかりませんが、値段的にこれで整合性あるのか。他社からもやっぱり価格とか調べる必要あると思いますけれども、それぐらいは。

○委員長（稲石義一） こちらから言わせてもらいますけれども、あくまで今の見積もりは、予算を計上するに当たっての見積もりという理解をしておりますので。今後、これが予算が可決された後については、事業執行に当たっての今、谷口委員の指摘として、今後、事業執行に当たっては複数のところからとっていくと、これがルールでございますので、今のところは、この予算の見積もりという意味合いにしとかんと、ぐあい悪い話になります。

○委員（谷口重和） そういう答弁をもらわんと、委員長のその話じゃなくして。

○委員長（稲石義一） いやいや、それは、当然そういうことをしとかんと、今までの見積もり400万円について、業者との関係でそういうことであれば、非常に議会との関係からしても、ぐあい悪い話になりますので、それは財政課のほうも十分よくご存じやと思うんですけれども、そういうことの認識のもとに今回、予算が可決されれば、執行に当たっての部分としての取り扱いということをご承知おき願いたいなど、議会として申し添えておきますので、何かありましたら言うてください。

木原課長。

○産業振興課長（木原浩一） 今、委員長おっしゃっていただきましたように、そのようにさせていただくのは当然と考えておりますので、よろしくお願ひします。

○委員長（稲石義一） 谷口委員

○委員（谷口重和） 終わります。

○委員長（稲石義一） ほかにくつわ池の件に関しましてございませんでしょうか。ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(稲石義一) それでは、2カ所目のシビック交流拠点のところを見させていただいたんですけども、これにつきまして何かご質疑ございませんでしょうか。今西委員。

○委員(今西久美子) 今、現地見せていただきましたけれども、307に近いほうが住民の利便性はいいと。ただ、川に近いというなお話もありましたけれども、当然、安全な場所というのは基本になるかと思うんですけども、この間も言いましたけれども、やっぱり住民の利便性という意味では、今307に近いほうでは、なかなか土地が確保できないようなイメージがあったんです。余り上に行くと、ほんまに坂でもありますし、大丈夫かなという、ちょっと心配やったんですけども、大体の位置みたいなことで、この辺がシビックゾーンというのはわかりますけれども、ちょっと具体的にこの間の土地で候補となるような場所が本当にあるのかどうか。どこと言ってもらわんでもいいですけども、ちょっと本当にそれが実現可能なシビックゾーンとしてできるのかどうか、ちょっとそれだけ教えてください。

○委員長(稲石義一) 奥谷課長。

○企画・財政課企画課長(奥谷 明) ご指摘のとおり、今現時点でここですと申し上げる段階ではございませんが、ご指摘のとおり、住民さんの利便性というのは十分注意払わなければならないと考えております。そうした中で、シビックゾーンの中での立地建設を考えておるんですけども、おっしゃいましたように、住民さんの利便性、また、実際の土地の取得に当たりますとは、安心・安全面、また、一段の土地、一定の広さも必要でしょうし、また、費用的な問題もあろうかと思えます。そういうところを総合的に勘案して早急に場所を決める中で、そういう住民さんの利便性も頭に入れながら、場所が決まりました折には、そういうところもまた十分検討させていただかなければならないのかなというように考えております。以上です。

○委員長(稲石義一) 今西委員。

○委員(今西久美子) 結構です。

○委員長(稲石義一) 谷口委員。

○委員(谷口重和) 今も現場見させてもらって、ますます不安になってきてるんですけども、きのうおとついでぐらいのテレビで、今、全国の人口が1億二千数百万ぐらいで大分減ったと。全国の市町村で80%以上が人口減っていると、そういうふうな状況を考えた中で、これからあそこで果たしてこの構想が実現できるものか、私はいろいろと

心配ばかりしていますけれども、単刀直入に考えて、私は不可能のほうが強いと思います。行政やから、そんな処遇的なことも考えられへんと思いますけれども、今現在、見て、500m新道つくって、そこが入り口であるか中心であるか、行って見て大体判断しましたら、もう500mのところはもう中心でなくて入り口ぐらいやと。そこから辺からまだ中に庁舎建てて、それから複合施設どんどんつくっていくにしたって、そこに一つの新しいまちがこれからつくれるのか。理想はそれはわかりますけれども、現実にはできないと思います。もう一回、同じ答えか知りませんが、その考え方を聞かせてください。

○委員長（稲石義一） 奥谷課長。

○企画・財政課企画課長（奥谷 明） 現状、そういうご指摘もありがとうございます、私ども数十年先を見たまちづくりを考えた折りに、やはり新都市とこれまでから申しております地域の発展というのは、本町のまちづくりにとって欠かせないと考えております。そのためにも山手線整備、また、庁舎をはじめとするそういうような施設、そういうものを複合的に新しい土地利用を進めていくことによって一体の新たな発展に結びつけ、それをひいてはまち全体の発展、人口の問題にしてもしかりでございますけれども、新名神山手線、そういうものを含めまして、新たなまちづくり、これからの将来のまちづくりに向けて、先を見たまちづくりを進めていきたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○委員長（稲石義一） 谷口委員。

○委員（谷口重和） 最後に、私は、一般質問でも言いましたように、そんな消極的な人間でもないんですけれども、今の時代としたら、このまちは、やっぱりコンパクトにしていったほうが、住民も安心して暮らせるし、負担も軽なると思います。それ以上、いろいろまた研究して、勉強してから質問したいと思います。終わります。

○委員長（稲石義一） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） シビック交流拠点の質疑については、以上で終わらせていただきます。

次に、3カ所目のお茶の京都交流拠点整備事業について、質疑ございませんでしょうか。谷口委員。

○委員（谷口重和） これは、逆に今、駐車場つくらはる。それもしかりやけれども、あそこから宗円生家までタイル張るとか道をもっと完璧にきれいにするとか、もっともっ

と投資して、宇治で現地メディアもあの近辺の道路とか、三千院のほうのきれいな道路とか、もう完全な遊歩道的な道に、それぐらいやっぱりやっぺいっていかんと、人を呼んで集約しようと思ったら、そんなもの800万円や1,000万円の金かけてそんな来るような時代と違うと思います。その点、ちょっと町長の考え聞かせてください。

○委員長（稲石義一） 町長。

○町長（西谷信夫） 谷口委員おっしゃることはよくよくわかっているつもりでございます。今回は、お茶、京ということで、交流拠点の中で駐車場をまずはということでございます。湯屋谷の地形の場合は、川の横に道という、道の道路幅が大変狭い、そこが地域住民さんの生活道路になっているということで、例えばそういうハード事業をやろうと思ったときに、一旦通行どめということになる状況には予測されるんです。ほんで、今後、私自身も全面的じゃなくても、部分的とか、あと、川がふたしている部分もございまして、そういうところでうまく離合できる部分も検討していきたいということで、今後、考えております。歩いていただいて楽しんでいただくということは、委員おっしゃるとおり大変大事やと思っておりますので、その辺も十分検討したいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。

○委員長（稲石義一） 谷口委員。

○委員（谷口重和） 以上で終わります。

○委員長（稲石義一） ほかにございせんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） ないようでございますので、以上で現地審査についての質疑を終わります。ここでお諮りをいたします。本日の委員会はこの程度にとどめたいと思っておりますが、これにご異議ございせんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） 異議なしと認めます。

本日の予算特別委員会は、これにて延会することに決しました。

なお、次回は23日水曜日、午前10時から委員会を開きますので、ご参集のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は大変ご苦勞さまでございました。

なお、申し合わせにより、本日の5時までに総括質疑の受付と委員会での討論、これの締め切りとさせていただいておりますが、総括質疑については、ただいまのところ2名から、垣内委員と今西委員から提出されております。この場で5時までとなってい

ますが、確認しておきたいんですけども、これ以上総括質疑を提出しないということであれば、このように今、確認しておきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。5時まで、今考えているんで、出しますという方いらっしゃったら、今申し出ていただきたいと思いますが、ないですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） そしたら、総括質疑につきましては、先ほど申しました2名の方、また、委員会での討論につきましていかがでございますでしょうか。討論されるという方、いらっしゃいますでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（稲石義一） 委員会での討論については、なしというふうに確認をしておきたいと思います。また、29日の本会議において討論を予定されている場合は、配付いたしております通告書に従いまして、議案番号、議案名を記載願いまして、24日午後5時までに議長に提出願います。以上でございます。

どうも大変ご苦労さまでございました。

延 会 午後3時26分

宇治田原町議会委員会条例第26条の規定によりここに署名する。

予算特別委員会委員長 稲 石 義 一